

平成27年度 《 第5号 》

貞香会 会 報



2015 TEIKOKAI Annual Report



書作する喜びを



貞香会会長 赤平泰処

貞香会五十回の記念書展も皆様のご協力により盛況裏に終えることが出来ました。誠にありがとうございます。

また、会の運営に携わった役員、係の方々、本当にご苦勞様でした。一体となつて為し遂げた達成感、成果は必ず次回展への弾みとなると信じております。この経験を活かして五十一回展に新たな一步を踏み出していかなければその成果は半減してしまいます。書作も同じこと、反省の中での繰り返し、継続してこそ書作することの意義があります。

見学された多くの人たちから、中村素堂先生の書人としての素晴らしさ、会つてみたかった、貞香会のこと少しわかりました、などの話が聞かれた。私自身会場で弟子であることを誇らしく思った。反面、自らのふがいなさに恥ずかしい思いました。

素堂先生が思い描いた書の世界とは何だったかと問い直し見つめながら、書作することの喜びにしたいと思つている。

和を以って貴しと為す



理事長 中村 青 藍

第五十回記念貞香書展におかれましては、運営に携った先
生方並びに出品にご協力くださいました皆さまに、厚く御礼
申し上げます。

特別展示の「中村素堂遺作展」では何回もご来場下さる方
も多く、ご高評をいただきました。五十回展の記念事業が無
事終えることができましたことは、感謝とホットした気持ち
で一杯です。これを機に更なる発展がされることを切望いた
します。

貞香会の発表の場である東京都美術館と国立新美術館では
五年毎に審査と会期の見直しがあります。結果、めでたく両
美術館共に審査に合格し、会期と展示会場共に現状の希望が
叶いました。

・東京都美術館で開催の貞香会総合書展は二〇二二年（平成
三十四年）まで一月中旬の開催が決定。
・国立新美術館で開催の貞香書展は二〇二一年（平成三十三
年）まで六月下旬～七月初旬の開催が決定。

しかし問題は、発展・発展と言っても貞香会会員の現状
は六〇代以上が約六〇％を占めています。五年後はどうか、
約七〇％に迫り年金生活者が主です。逆に三〇代以下は約十
三％に満たないのが現状です。

課題は、高齢化の問題と一般会員の増加を図ることではない
でしょうか。

私が思うに、貞香会がこれまでに培ってきた、①会員は平
等の精神に則り、互いの人格を尊重すること、②会運営の原
則を合議制で図ること、③開かれた会の活動を図ること、こ
れが大事なことと認識しております。これからも貞香会が発
展し続けるためにも、聖徳太子のお言葉「和を以って貴しと
為す」を信条にしていきたいと思えます。

平成二十七年 貞香会総会報告

平成二十七年定期総会は、一月十九日(日)午後三時から、東京都美術館講堂において開催されました。総会には顧問の中村素岳先生、参与の大野宜白先生のご臨席のもと、二十七名の会員の出席をもって開催となりました。

総会は、鈴木蓮徑理事の司会で進められ、開会のことばを中村青藍理事長が行い、続いて挨拶に立った赤平泰処会長は、今年の貞香書展五十回の記念展に向けて何より重要なことは会員相互の協力である。理事の皆さんと力を合わせて、成功のためにご尽力をいただきたいとの旨を述べられました。

次に委任状の確認を司会より報告があり、会員数二二九名の内、総会出席者二十七名、委任状提出者一三八名、合計一六五名になり、総会が成立いたしますと報告がありました。議長には大野宜白参与が選任され議事に入りました。

先ず、第一号議案の平成二十六年事業報告が根本泰邸事務局長より、第二号議案の平成二十六年決算報告が後上菁華理事より、その後、会計監査報告が真下良祐監事からあり、一括承認されました。

次に、第三号議案の平成二十七年事業計画案が根本事務局長より、第四号議案の平成二十七年予算案が後上理事より提案され、一括承認されました。

理事改選については、本年は貞香書展第五十回記念の成功に向けて、理事の一致団結が不可欠で取り組むため、本年度の理事は留任とすることを承認された。

その他の議事について、理事会で検討が進められている、第五十回記念貞香書展の特別企画などの取り組みが根本泰邸事務局長より説明がありました。その他の議事特になく、大野議長が拍手の中、議事が終了したことを宣しました。

最後に奥山泰嶺副理事長の閉会のことばで総会が無事終了いたしました。これにつづく懇親会も七十名程の参加で盛況でありました。その席上では、第六十七回毎日書道展の審査員は中村素岳顧問が務めることが発表され、挨拶がありました。(根本泰邸記)

出席者

| | |
|-------|-------|
| 中村素岳 | 大野宜白 |
| 赤平泰処 | 中村青藍 |
| 鈴木蓮徑 | 根本泰邸 |
| 亀和田郁芳 | 真下良祐 |
| 小澤茜逕 | 末永江春 |
| 細田香瑤 | 吉田和蓉 |
| | 中田翠苑 |
| | 阿部 匠 |
| | 山口和希子 |
| | 奥山泰嶺 |
| | 今井泰篁 |
| | 二木秀蔭 |
| | 山根紅樹 |
| | 沖 素宮 |
| | 大屋泰穹 |
| | 大屋泰暲 |
| | 中田翠苑 |
| | 中村東泉 |
| | 後上菁華 |
| | 室生大韻 |
| | 八木舜堂 |

【平成二十七・二十八年度役員名】

| | | | |
|-----------|-------|-------|------|
| 〔顧問〕 | 中村素岳 | 長谷川耕心 | 荒木大樹 |
| 〔参与〕 | 中谷春徑 | 晝間欽堂 | 室生大韻 |
| | 若井香樹 | 大野宜白 | 松本宜響 |
| 〔名誉同人〕 | 佐藤中処 | 後藤鶴台 | 林田翠龍 |
| 〔会長〕 | 赤平泰処 | | |
| 〔理事長〕 | 中村青藍 | | |
| 〔副理事長〕 | 奥山泰嶺 | | |
| 〔理事・事務局長〕 | 根本泰邸 | | |
| 〔理事〕 | 今井泰篁 | 柏木南城 | 金子正信 |
| | 後上菁華 | 高橋珠翠 | 平林大舒 |
| | 光谷素仙 | 山根紅樹 | 鈴木蓮徑 |
| 〔監事〕 | 亀和田郁芳 | 真下良祐 | |
| | | | 加茂泰玄 |
| | | | 二木秀蔭 |

「TOKYO書2015」公募団体の今」展

根本泰邱先生 代表出品

1月4日～16日
東京都美術館

東京都美術館では、毎日書道会、読売書法会、産経国際書会に所属し関東に拠点を置く公募団体から18団体を選定し、その団体から代表として選ばれた次代を担う気鋭作家・38名による大作展を主催。2015年は3回目の開催で、貞香会より根本泰邱事務局長が出品。2点の大作を発表した。



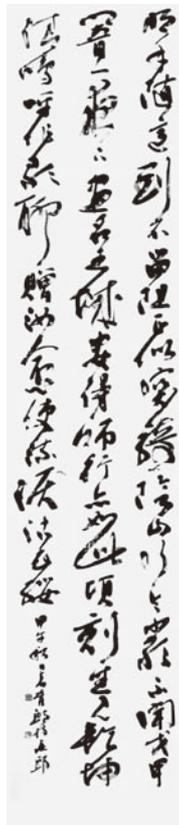
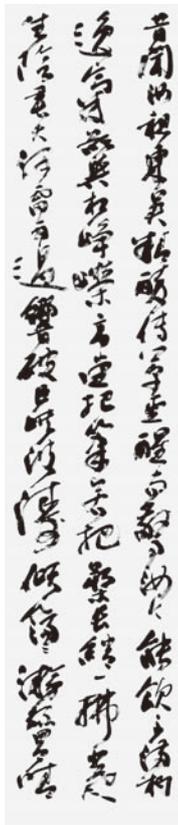
この展覧会では、会期中3日間にわたり、各会派の代表作家によるアーティスト・トークが行われ、根本泰邱先生は、1月12日(日)午後4時より担当・解説された。

自らの作品を前に、制作に際し撰文した漢詩についての説明や、制作経緯や技法、書への思いなどをギャラリーの皆さんに伝えた。

特に、紙や筆の選び方に苦労したことや、4行の大字作品を書くときの独自の方法などわかりやすく説明をされていた。

また、根本先生の前に解説をされた他団体の先生より質問をいただき、堂々と応答していたのがとても印象的だった。

今年も大作展とアーティスト・トークとも、大勢の方々が集まり好評を博した。



'15 貞香会総合書展

1月20日～24日
東京都美術館

貞香会にとって二大イベントの一つ、総合書展が開かれた。出品は第一部役員展122点、第二部書範展598点で合計720点。最終日の24日午後には、教育部、一般部別に授賞式が行われ、多数の受賞者やご家族の方が出席した。その中で挨拶に立たれた会長の赤平泰処先生は、今年6月に開かれる50回記念貞香書展には是非とも一般部受賞者全員が出品されるよう呼びかけられた。また、記念行事が色々と予定されているので、中村素堂先生の遺作展や講演会・祝賀会などに、皆さんもご友人と一緒に参加してください、と締めくくられた。

今回の書範展で特筆すべきは、高校生と大学生の目ざましい活躍だった。高校大学合わせて33名中20名受賞。しかも、高校生1名、大学生2名が最高賞に輝いている。こうした若い力が貞香会の未来を支え、切り

開いていくものと期待したい。貞香書展も高校生の出品が可能となっている。

24日午前には大作を出品した先生方による席上揮毫会が、展覧会場で行なわれ、たくさんの観客が詰めかけ、熱気に包まれた。



授賞式の様子



席上揮毫会



懇親会で挨拶される赤平泰処会長



盛り上がる懇親会の様子

15 貞香会総合書展 受賞者

師範部

貞香会会長賞

及川 佩玉

松浦 芳春

川端 正廣

根布谷順子

池田 翠雨

荒井 翠雨

奥村 珠翠

仲山 清勝

橋尻 湖心

越川 淑泉

高梨 峻玲

中川 秀雲

向後 佳溪

戸田 順子

北村 亭弘

貞香会奨励賞

塩野 洋子

小湊 陽

和由 香利

書範社賞

杉山 正巳

浦野 芽衣

高木 快道

専心社賞

志太 恵佳

小林 如雪

早乙女直美

林 婆弓

川口 杏苑

稲葉 敏枝

田辺ゆきの

小川 美子

藤崎 竹情

川原 幽香

正木 桂香

加瀬 順子

岡田 和子

西山 尚子

世継 仁美

河合 雪華

野村 佳鈴

有田 悠華

寺口真登夏

上原さおり

広田 環葉

根津 瑠子

坂本 友香

鳥谷部美優

大谷 佳代

菊地可栄愛

早乙女和子

小野塚なつみ

川上 詩織

高木美恵子

湯川佳津代

栗山 幸美

藤原 優子

山中あつみ

高安のり子

市川 賀雪

宮川 米子

山口美津子

大木 珠芳

田村 永春

山本 惠翠

那須 久世

三上 郁子

須谷 成子

有馬 成子

我満望菜美

市原 倅心

若梅 照華

山本その子

成田美和子

菊山 隆嘉

渡辺 嘉宏

篠原 翠峰

渡辺 翠峰

荒井 美保

正田 香雲

石毛 雪雲

佐藤 翠雪

五喜田幽石

松島 翠柳

川口 光希

鈴木 秀華

田窪 青蘭

酒寄 方治

宮田 寛子

住谷 寛子

米井 哲朗

古田凜汰郎

渡辺 悠斗

三上 郁子

須谷 成子

有馬 成子

我満望菜美

市原 倅心

若梅 照華

山本その子

成田美和子

菊山 隆嘉

渡辺 嘉宏

篠原 翠峰

渡辺 翠峰

荒井 美保

正田 香雲

石毛 雪雲

佐藤 翠雪

五喜田幽石

松島 翠柳

川口 光希

高橋美智子

五十嵐千佳子

鈴木 秀華

田窪 青蘭

酒寄 方治

宮田 寛子

住谷 寛子

米井 哲朗

古田凜汰郎

渡辺 悠斗

三上 郁子

須谷 成子

有馬 成子

我満望菜美

市原 倅心

若梅 照華

山本その子

成田美和子

菊山 隆嘉

渡辺 嘉宏

篠原 翠峰

渡辺 翠峰

荒井 美保

正田 香雲

石毛 雪雲

佐藤 翠雪

五喜田幽石

松島 翠柳

川口 光希

高橋美智子

五十嵐千佳子

大久保里紗

山内 久蓮

工藤 あかり

鈴木 麻尋

村上 碧

石井 里沙

山中 美沙

早乙女笑美

八木彩由美

杉山 快

木村 弥鈴

平山 佑奈

早乙女歌歩

須谷 成子

有馬 成子

宇野 優花

長島 美結

水上 千湖

大塚那津子

植草かれん

福崎 優希

鈴木 来珠

塩濱 花菜

渡辺 陽奈

飯島 弘章

小川 愛日

飯島 弘章

飯島 弘章

飯島 弘章

山崎夏樹斗

玉熊 研吾

山内 涼葉

古田 由梨

黒澤 瑠璃

豊田 中つばき

田中 彩聖

三戸 希美

岸 良美

鈴木 真弘

根本 美雨

田中 美々

佐藤 陽

浅谷 依良

仙波 麗愛

稲葉 陽翔

中島 澄香

板子 聡

原 柚希

小林 柚樹

田鹿 陽大

小野 瑞生

鈴木 美羽

長谷川美咲

小林 亮太

三宅 朱莉

山本 朱莉

芳田 康生

山崎望々春

菅谷 和希

久米田 芽

村田 美瑛

村上 由衣

過 尚希

寺西 葉祐

佐藤 陽音

伊藤 光心

山田 朝陽

山本 瑠璃子

間宮 愛結

桑原 廣雅

山田 天花

荒木 麗

泉田 絢香

渡邊 智香

大塚可南子

高田 望夏

寺西 葉菜

落合瑠宇久

山田 海里

平林 愛来

玉熊 純

村田 和樹

足立 悠馬

村田 佳穂

荒木 蒼真

荒木 蒼真

荒木 蒼真

鈴木みのり

飯野 岳樹

荒木 康輔

杉田 祐太

徳永 祐太

森 丈太郎

間宮 一期

平林 星来

特別賞

齊藤美津江

青野 政代

吉田 光男

武田 ちさと

峯岸 悦子

白鳥 文子

特別選

小林 悟

山口 和美

大石 哲司

高田 秋子

辻 友枝

小笠原萌泉

池田 和彌

土肥英美子

武井 幸子

大沼 圭真

佳作

大岡地翠榮

生田 郁子

秀作

傳田 遥香

高橋美智子

三戸 涼舟

山崎望々春

山田あゆ美

田口 直輝

太田 彩月

山崎 香凛

渡邊 智香

吉澤 ひかり

久米田 萌

永見 和子

渡邊 礼子

今井 静枝

山本寿美子

山影美和子

岡田 節子

伊藤 里恵

岩瀬 任子

萩本 育広

北村 宗子

青木 真珠

山内 蓮

猪瀬 知磨

大海 知磨

須藤 美咲

鶴見 侑樹

大島 恋

水上千湖

大西 千佳子

滋野 綾菜

山崎望々春

山田あゆ美

田口 直輝

太田 彩月

山崎 香凛

渡邊 智香

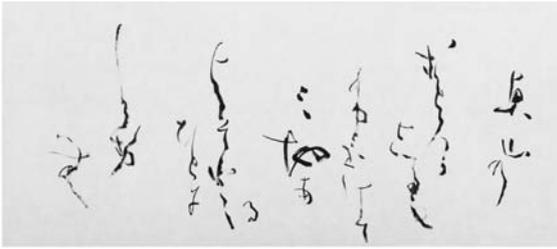
吉澤 ひかり

久米田 萌

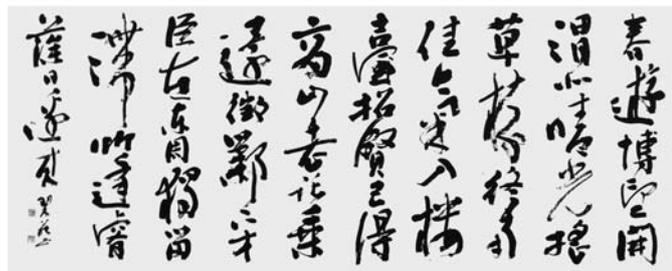
永見 和子

渡邊 礼子

今井 静枝



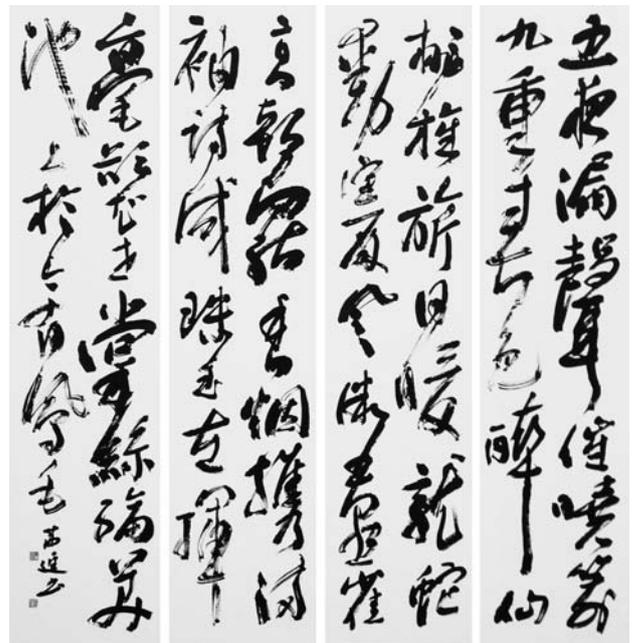
末永江春



中田翠苑



大屋泰穹



小澤茜選

※選抜大作展に展示された根本泰邸先生の作品は、P.4に掲載有り。

'15 貞香会総合書展

《ダイジエスト》

◎選抜大作展を併催

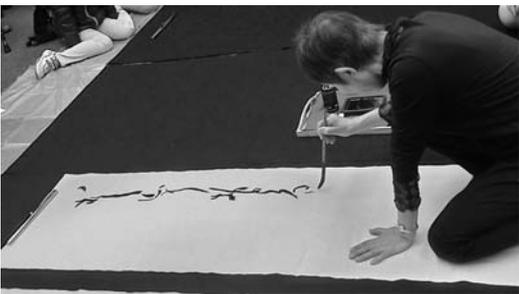
2015年度は、TOKYO書2015展示作品および各書展において輝かしい賞を受賞された方々による作品を展示、選抜大作展を併催した。

〔出品者〕

- 根本泰郎 (TOKYO書2015 代表出品)
- 末永江春 (第49回貞香書展 特別賞・同人推挙)
- 中田翠苑 (第49回貞香書展 特別賞・同人推挙)
- 小澤茜逕 (第57回東方書展 特別賞・同人推挙)
- 大屋泰穹 (第66回毎日書道展 毎日賞)

◎席上揮毫を開催

展示会場にて、1月24日(日)午前10時より大屋泰穹先生、小澤茜逕先生、末永江春先生、根本泰郎先生による席上揮毫を開催。多数の観客の前で、それぞれ先生方が筆裁きを披露、最後に解説をされて、皆さんの前で想いを伝えられた。



◎会友昇格者

2015年度、会友規定により左記の方が新会友に昇格しました。おめでとうございます。

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 荒井 谿水 | 上坂 木蘭 | 大島 京子 | 及川 佩玉 |
| 北井 康子 | 越川 淑泉 | 近藤 朗詠 | 鈴木 柏琴 |
| 鈴木 英男 | 松下 彩虹 | 山口和希子 | 山中あつみ |
| 世継 仁美 | 渡辺 萌苑 | | |

第58回 東方書展

《ダイジェスト》

◎「俊拔展」を併催

平成27年度の「俊拔展」では、貞香会より、副理事長の奥山泰嶺先生が代表作家として出品されました。4月5日(土)には、展示会場にて俊拔展出品者の作品解説が行われた。

「大作ということもあり、一文字一文字に重量感を持たせ、筆圧をかけて太めの線でそれぞれの文字を扁平に形作り、方形におさめるように制作しました。どうしても、文字が求心的になり、懐が狭く萎縮する傾向があるので、できるだけ広がりを持たせながら、ゆったりとした波磔などを意識してゆっくりと線を引いていくことに心がけました。」と、奥山泰嶺先生が自身の作品を前に解説されました。



◎昇格者

第58回東方書展受賞に伴い、東方書道院の規定において、次回展より次の方が昇格になります。おめでとうございます。

〔同人昇格〕 川島 栖園
〔準同人昇格〕 稲田 祥英



最高会議員 中村素岳先生



運営委員 赤平泰処先生



中村汀華先生



杉戸泰岳先生

◎第58回東方書展

審査員作品

〔特別賞選考〕

中村素岳

〔第1部審査員〕

赤平泰処 奥山泰嶺

杉戸泰岳 中村汀華

〔第3部審査員〕

鈴木蓮徑



鈴木蓮徑先生

第50回記念 貞香書展

第50回記念貞香書展所感

平林大舒

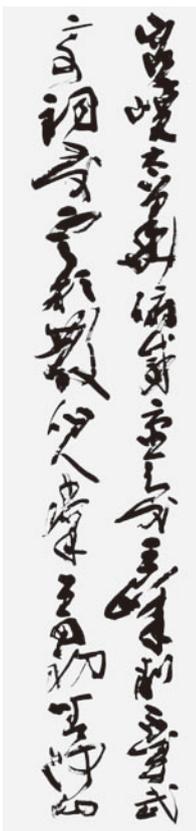
平成二十七年六月二十四日より七月六日迄、国立新美術館三階で開催された。正面入口より特別展示中村素堂遺作展が併催され、ページの壁面に、遺墨集より構成された二十四作品が展示された。代表的な作品の数々であり圧巻であった。展示室中央のガラスケースの中には、素堂先生に送られた著名人書道家からの年賀状、葉書、書簡、出版物、雅印等が陳列され好評を博した。

会場展示は、二十八年振りの中村素堂記念賞を始め、特別賞同人推挙、推薦、役員作品と続き、公募一部、二部と並んだ。総出品三三三二点である。

先師中村素堂先生は、書体(篆、隸、楷、行、草、仮名、詩文書)にとられず、多字数、小字数と各書体の作品を創作され、現在の貞香会もこれを引継ぎ、大きな特色となり、バラエティに富んだ展覧会となっている。今回の受賞作品も多様性があり、力作揃いであった。今後共、芸術書道の創作に励んで頂きたい。受賞者の皆様に心よりお祝いを申し上げます。

第50回記念 貞香書展 (優秀作品)

中村素堂記念賞 三浦看山

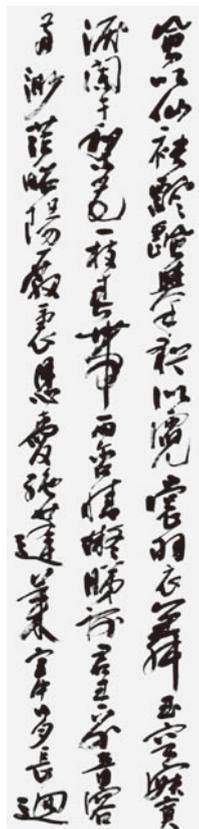


平林大舒先生

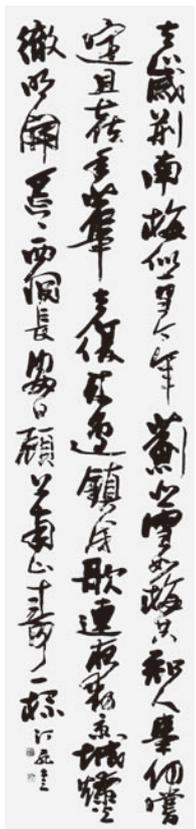
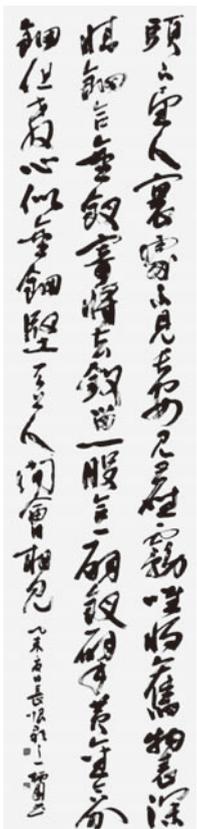
特別賞・同人推挙 沖 素宮



特別賞・同人推挙 川島栖園



特別賞・同人推挙 深井汀苑



第50回記念 貞香書展受賞者

中村素堂記念賞

特別賞・同人推挙

推薦

公募第一部

■第五十回記念賞

漢字多字数部門

■特選

漢字多字数部門

漢字少字数部門

仮名部門

■準特選

漢字多字数部門

漢字少字数部門

仮名部門

■秀作

漢字多字数部門

漢字少字数部門

仮名部門

■詩文書部門

漢字少字数部門

公募第二部

■特選

漢字多字数部門

漢字少字数部門

仮名部門

■準特選

漢字多字数部門

漢字少字数部門

仮名部門

■秀作

漢字多字数部門

漢字少字数部門

仮名部門

漢字多字数部門

漢字少字数部門

仮名部門

◎昇格者

第50回記念貞香書展受賞に伴い、本会の規定において、次回展より次の方が昇格になります。おめでとうございます。

〔同人推挙〕

沖 素宮

〔準同人昇格〕

伊藤朱楊

緑川杏泉

〔鑑別会員昇格〕

市川賀雪

近藤朗詠

〔会友昇格〕

池田翠雨

小堀竹栖

榎木良裕

豊田瑞空

鈴木彩香

藤原優子

田辺由美

佐藤融雪

室井大輔

石川綾子

吉田堂胤

大堀谿光

今泉伊代子

市原倅心

高橋美智子

川原幽香

大木秀佳

峯岸悦子

福田玉姫

石毛香雲

栗山幸美

林玉凜

五喜田幽石

岸伯子

香取翠苑

有馬成子

長畑裕子

若梅照華

加藤伸幸

長畑裕子

菊山降嘉

長畑美成

若梅照華

加藤伸幸

長畑裕子

長畑美成

若梅照華

加藤伸幸

長畑裕子

長畑美成

若梅照華

加藤伸幸

長畑裕子

長畑美成

若梅照華

加藤伸幸

川島栖園

深井汀苑

上原東琴

富田 希

長尾貫清

平澤大廣

一色東雲

橋本竹泉

宇井玉韻

松村窓紅

渡辺桃舟

上坂木蘭

及川佩玉

大芦義雄

川端正廣

北村亭弘

大芦義雄

野村佳鈴

彦田翠香

森 佳鶴

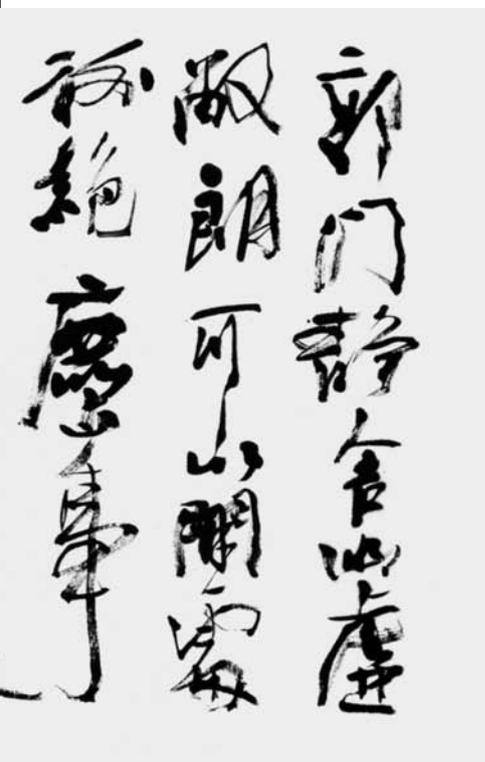
《特別展示 中村素堂遺作展》

昭和四十七年(一九七二)「出麿良駒」

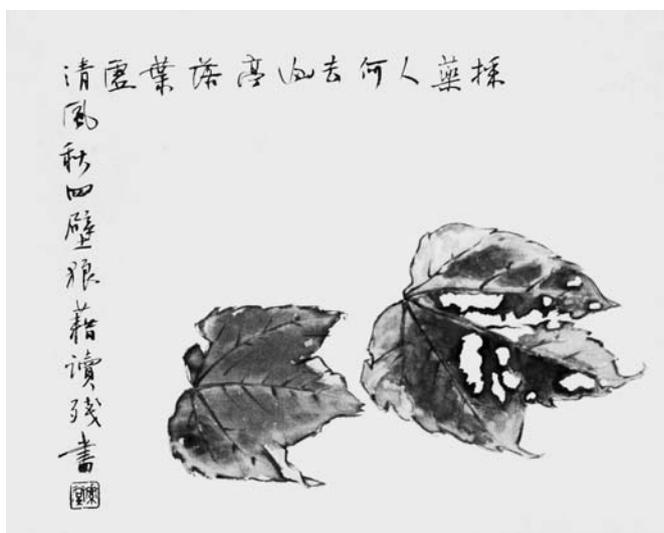


139.0×74.5

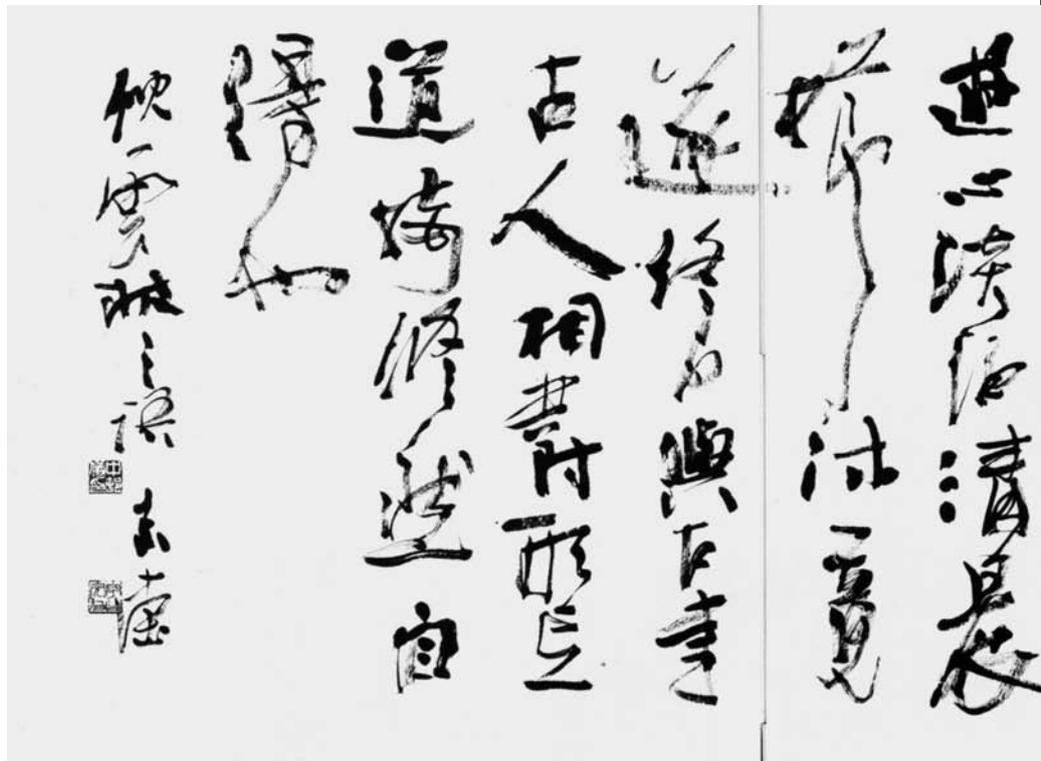
昭和五十四年(一九七九) 倪雲林語



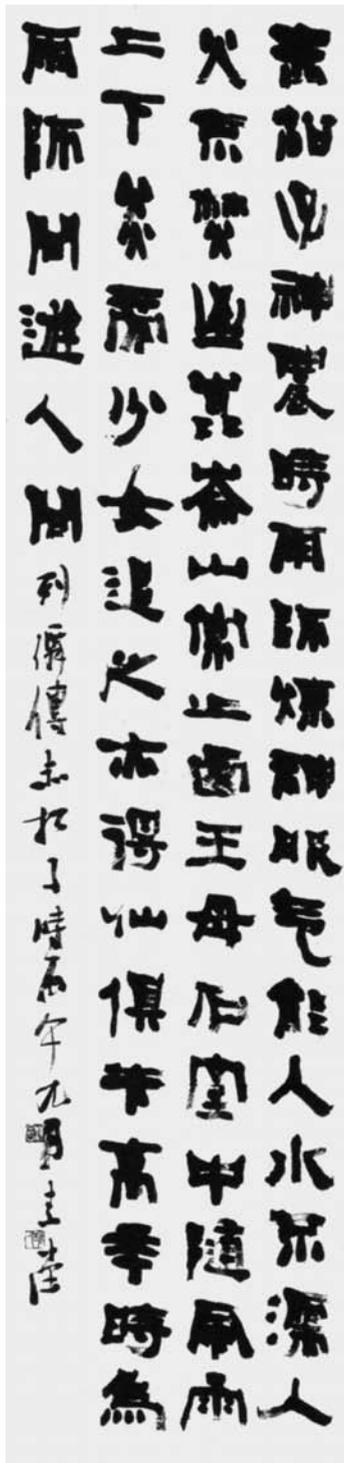
昭和六年(一九三一) 大槻磐溪詩



28.0×34.5



69.0×136.0



135.0×33.0

昭和四十一年（一九六六）『列仙傳』より

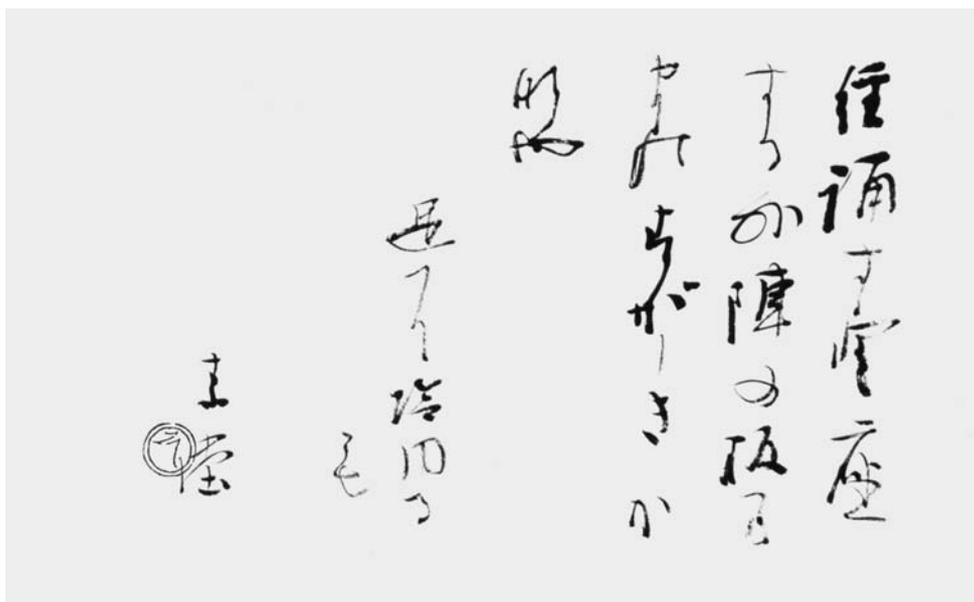
貞香書展第50回を記念して、中村素堂先生の書業を顕彰する特別展示「中村素堂遺作展」を開催。多く作品の中から選りすぐり、代表作品24点を展示した。また、素堂先生と縁のある著名な文人墨客との書簡・年賀状・葉書、出版物、記念写真、雅印や愛用筆などの愛玩品なども多数展示ケースに陳列し、来場者より素堂先生の偉業に数多くの賞賛のお言葉をいただき、好評を博した。

昭和四十九年（一九七四）『碧巖録後序』より



69.0×135.0

昭和五十七年（一九八二）『ふぢばかま』より



31.0×52.0

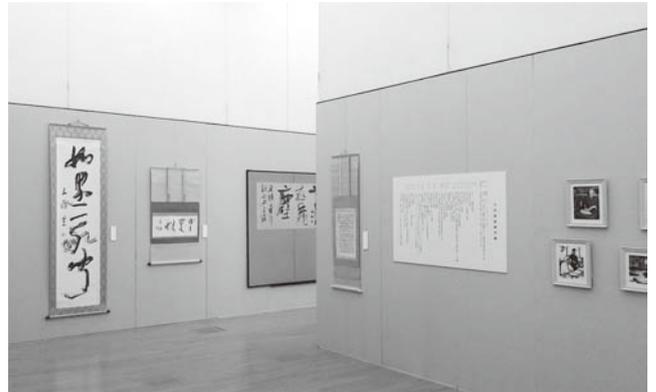
昭和三十六年（一九六一）「昨夜一聲雁」



135.0×22.0



交流深い文人墨客の方々からの年賀状



代表作品「如是我聞」が来場者をお出迎え



展示ケースを見入る来場者



愛用印と印影



愛用筆の数々



多様な書体の「南無阿彌陀佛」

第50回記念 貞香書展

《ダイジェスト》

◎外部審査員による特別賞の審査・選考を実施

今年度も外部審査員を採用し、平成27年6月18日(木)に書評論家である小野寺啓治氏に特別賞の審査・選考を依頼した。今年度は、第50回貞香書展を記念し、中村素堂記念賞に同人の三浦看山氏の作品が選ばれた。
また、特別賞・同人推挙に深井汀苑・沖素宮・川島栖園の3氏の作品が選ばれた。



※小野寺啓治氏は、2015年11月2日に急逝。貞香会の書をよく知るジャーナリストの一人がいなくなってしまうのは誠に残念である。この場を借りて、御冥福をお祈り申し上げます。

◎中村素堂先生の直弟子によるギャラリートーク開催

第50回記念貞香書展の特別企画として、特別展示・中村素堂遺作展の会場内にて、直弟子の先生方によるギャラリートークを開催した。中村素堂先生との思い出話や、作品、書簡、愛用の印・筆などについて様々なエピソード披露しながら、観覧者とともに書を鑑賞した。ギャラリートークを担当された先生方と開催日は次の通り。(各回とも11時より開催)

- 6月24日(水) 中村素岳(顧問)
- 6月25日(木) 晝間欽堂(参与)
- 6月26日(金) 室生大韻(参与)
- 6月27日(土) 荒木大樹(顧問)
- 6月28日(日) 赤平泰処(会長)



◎作品解説を開催

展示会場にて、
7月4日(土)午前11時
～12時、赤平泰処会
長による作品解説を
実施した。

特別展示・中村素堂
先生の作品や、受賞
作品を中心に、丁寧
に楽しく会員の方々
に解説をされていた。



◎席上揮毫を開催

国立新美術館の3階講堂にて、7月1日(水)午後2時～3時、荒木大樹顧問、松本宜響参与、中村青藍理事長による席上揮毫を開催。多数の観客の前で、迫力のある筆裁きで見応えのある作品を揮毫された。



◎特別講演を開催

7月4日(土)午後2時半～4時、国立新美術館講堂にて、特別講師に大西克也先生(東京大学教授)をお招きして、「楚簡・秦簡より見た戦国時代の漢字について」の演題で講演を賜った。当日は、大西先生をご紹介くださった東京大学名誉教授の松丸道雄先生もご臨席、講師のご紹介をいただき、受講者多数で充実した講演会となった。

特別講師・大西克也先生



満員の講演会



◎記念祝賀会を開催

如水会館において、7月4日(土)午後6時半より記念祝賀会を開催。毎日新聞社および毎日書道会関係などのご来賓、マスコミ各社の方々など多数ご臨席賜り、にぎやかに祝賀会が行われた。余興のよさこいやギター演奏なども盛り上がり、盛会のうちに終了した。



第67回 毎日書道展

第67回毎日書道展審査所感

中村素岳

第六七回毎日書道展は公募作品が前年一四八点減少するも二九、五六〇点と三万点に近く凄じ数である。漢字部が一、二、四六八点と公募の四二、二%、陳列された会場からみても、参加団体の多さからくる作品の多様化から他部門を圧している。一類が五六〇七点、二類が六八六一点と六一回展以後二類の占率が高い。

本会からの出品は一七〇点、五月の鑑別では、一・二類とも二五名の審査員の選考で一類十二ポイント、二類で十一ポイントが入選ラインとなり五五点が入選。入選率は四四%一点足りず届かなかった作も多くきびしい結果となった。六月の審査で表装された入選作と会友作品で審査が行われ、日展問題の影響か、誤字脱字が担当役員により長時間協議があり賞が決定した。

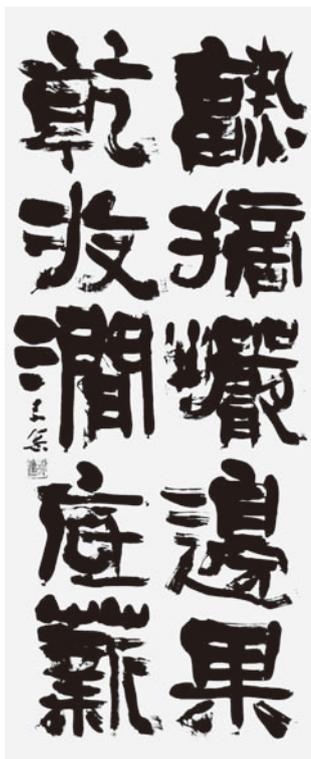
鑑別・審査ともに、一ラウンド二〇分で、一二〇〜二二〇点の作品を選考する。一点あたりの時間は五秒あまり、審査員が作品の判断に要する時間は二秒程、瞬時の判断で可否を求められます。

一類作品として、行草作品が圧倒的に多い。特に高得点は連綿作で単体作は極めて低い。隷書作品は一割程度か、楷・篆作品はまれにしかない。今回は三行四〇字(五言律詩)作が多く目についた。二行目中央に一气呵成に見せ場を作り、黒と白のバランスを保つ作品に票が集まり、七言律詩(五六字)では三行より四行の作に、多行作品に努力を感じるのか得点が高い。隷書も骨格より強弱、墨量の変化、動的な作が効果をあげていた。

本会の作品群は、字形、線質の強さ、統一したリズム感など決して引けをとらないが、短い時間で主張するには重々しかった。

審査期間中貞香書展と重なり、多くの審査員が来場、強い作品群と賞賛を下さいました。

本年度当番審査員(漢字部I類審査員) 中村素岳先生



毎日展は来年も傾向は同じと思います。佳い作品は必ず評価されます。来年も一人でも多くの方の挑戦出品を期待します。

第67回 毎日書道展(優秀作品)

毎日賞 川島 栖園



第67回 毎日書道展 入賞・入選者

〔漢字部入賞者〕

☆毎日賞

☆秀作賞

☆佳作賞

- 川島 栖園
- 大屋 泰穹
- 石原 翠山
- 富田 青軒
- 川嶋 芳岳
- 飯野 柳和
- 三浦 看山
- 大塚 澄心
- 坂井 哲鋒

〔会友並びに公募入選者〕

*漢字部I類入選者

- 上野 泰徳
- 大屋 泰穹
- 川島 栖園
- ☆坂井 哲鋒
- ☆鈴木 玲香
- 外山 翠光
- 二木 秀蔭
- 室井 汀翠
- 秋田 谷岱空
- 海野 蒼秀
- 沖 素宮
- ☆川嶋 芳岳
- 酒井 芳華
- 高木 素近
- 永井 静軒
- 日向野 光苑
- 矢口 昌華
- 飯野 柳和
- 海野 杏徑
- 小澤 茜逕
- 川田 幸仁
- 笹山 汀華
- 立花 香琳
- 中田 翠苑
- 細田 香瑤
- 渡辺 蒼秀
- 石原 翠山
- ☆飯野 柳和
- 海老原 綵翎
- ☆石原 翠山
- 海老原 綵翎
- 加地 香泉
- 倉石 芳園
- 佐藤 泰石
- 角田 清蓮
- ☆富田 青軒
- 林 澄翠
- 光田 秀穂
- 上原 東琴
- 大塚 澄心
- ☆大塚 澄心
- 亀和田 郁芳
- 小竹 布美
- 鈴木 芳草
- 伊藤 朱楊
- 大芦 義男
- 恩田 澄光
- 下川 翠雨
- 高橋 久美子
- 長尾 貫清
- 藤井 泉桜
- 宮本 汀扇
- 横張 正子

*漢字部II類入選者

- 稲田 祥英
- 大石 碧堂
- 北井 康子
- 杉山 桃月
- 高橋 柳瑛
- 林 泰堂
- 保坂 登志
- 森川 映花
- 吉田 和蓉
- 今古賀 文彦
- 大島 京子
- 北村 亭弘
- 鈴木 秀華
- 武内 陽華
- 樋口 泰仙
- 松井 繁
- 森山 真衣
- 渡辺 蘇心
- 岩崎 芳穂
- 大塚 秀哉
- 近藤 朗詠
- 鈴木 英男
- 津田 雅代
- 彦田 翠香
- 松田 彩虹
- 安田 大智
- 市川 賀雪
- 江原 覺堂
- 小野 優
- 篠原 翠峰
- 関根 照雲
- 津村 佳園
- 平澤 大廣
- 松村 窓紅
- 山崎 香彩
- 伊藤 朱楊
- 大芦 義男
- 恩田 澄光
- 下川 翠雨
- 高橋 久美子
- 長尾 貫清
- 藤井 泉桜
- 宮本 汀扇
- 横張 正子

*U23 漢字部入選者

- ☆印は入賞者
- 宮田 奈摘
- 山口 和希子
- 中沢 哉子
- 山中 季蘭
- 浦野 芽衣
- 橋本 竹泉
- 和田 芳華

第66回 毎日書道展

《ダイジェスト》

◎パリ展に赤平泰処先生出品

2015年10月21日より、フランス・パリの国立ギメ東洋美術館が主催する「墨の世界 現代日本の書」が開幕。当展は、2012年に開かれた「現代日本の書代表作家パリ展 SHO1」、2013～2014年の「現代日本の書代表作家パリ展 SHO2」に続く3回目の展覧会である。

今回は、毎日書道展審査委員以上から四十二名が選抜され、貞香会会長 赤平泰処先生の作品「観自在」が展示された。

また、このほかフランス国立近代美術館所蔵の「日本の書から影響を受けたヨーロッパ近代画家による墨を用いた絵画」3点も展示され、日仏間の芸術表現を対比しながら作品を鑑賞することができるのが、今回の見どころだ。

開催前日10月20日夜に、開会式が展示会場にて執り行われ、レセプションパーティも華やかに開催、赤平先生も参列された。

展覧会は、2016年1月11日まで開催され、その間揮毫会などのイベントも定期的に行われた。書を通じた日仏間の国際文化交流がより一層深まり、日本の書と芸術性が更に欧州で広まったに違いない。(S)



パリ展 赤平先生作品の前で

◎昇格者

第67回毎日書道展受賞に伴い、毎日書道会の規定において、次の方が昇格されました。おめでとうございます。

- 〔会員昇格〕 大屋 泰穹
- 〔会友昇格〕 石山 心茜 岩崎 芳穂 恩田 澄光 下川 翠雨
- 清水 天悠 林 泰堂 樋口 泰仙 安田 大智

※会員昇格された大屋泰穹先生（貞香会同人）は、アートサロン毎日にて開催される「2016年毎日書道展新会員作家展」において、第2期「平成28年3月14日(月)から19日(土)」に出品。

◎毎日書道展 審査委員―栃木の会書展の開催

栃木県の毎日書道展審査委員による栃木展は、平成27年度は第11回展を栃木県総合文化センターで開催。貞香会より、参与の松本宜響先生と理事の鈴木蓮徑先生が出品された。総勢15名の出品者の作品群は、漢字・詩文書・大字書・仮名・刻字・篆刻とバラエティにとび、一人5メートルの展示幅に2点ないし3点の見応えのある作品が展示された。

松本宜響先生



鈴木蓮徑先生



洗碑会

薫風が清々しい五月晴れの下、小石川傳通院において洗碑会が催された。

五月二日、中村素堂先生のお誕生日であるこの日、記念碑の前にはご親族、弟子、孫弟子、そして先生に所縁のある方二十数名が集まった。

午後五時に開会。代表挨拶、ご親族紹介、代表者によってプレートの浄められたのに続き、菩薩願行文、般若心経が唱えられた。閉会后、記念碑前で集合写真を撮り、解散となった。

『如是我聞』の記念碑がこの地に建立されて、早二十年。そして、貞香書展が今年五十回の記念展。それを察したかのような今回の天気。まるで素堂先生の意気込みというか、気持ちの高揚を示しているかのようであると、貞香会会長・赤平泰処先生が挨拶で触れられた。

三十三回忌法要から一年が経った。

中村素堂先生の足跡を再確認し、記念展を成功させるという責務を果たすことが、会を更なる発展へと導くのではないだろうか。

(秋田谷岱空記)



碑前にて赤平会長挨拶



般若心経の読経



出席者全員で記念撮影

錬成会

平成27年2月22日(日)、南浦和・鷺毛堂の錬成会場において、東方書展、毎日書道展、貞香書展に向けた錬成会を行なった。

講師は赤平泰処先生、中村素岳先生があたりられ、30名が参加、更に作品のみの参加も加わり、百畳敷きの会場は作品で埋め尽くされた。また、講師の先生方に手本書きや批評をお願いする列ができ、特有の熱気に包まれていた。



書いては眺め、書いては悩み、悩める参加者に講師の先生は、細かくアドバイスを送る。講師の先生方の筆使いを間近で見ると、また作品構成などの指導を直に受ける、これらは錬成会に参加しないと学べない光景だ。

午後3時からは批評会、用筆の変化・墨の潤喝や全体構成などについて一点一点丁寧なアドバイスがあった。次回は更に多くの方々が参加されますよう期待いたします。

(理事一同)

〈平成二十七年 度事業報告〉

■ 主な展覧会

○'15 貞香会総合書展

会期…平成27年1月20日(火)～24日(土)
会場…上野・東京都美術館

○第58回東方書展

会期…平成27年4月1日(水)～5日(日)
会場…上野・東京都美術館

○第50回記念貞香書展

併催…中村素堂遺作展
会期…平成27年6月24日(水)～7月6日(月)
会場…六本木・国立新美術館3A
中村素堂先生直弟子によるギャラリートーク…
6月24日(水)・25日(木)・26日(金)・27日(土)・
28日(日) 各回11時～12時 展覧会場内
席上揮毫…7月1日(水) 14時～15時 美術館内講堂
作品解説…7月4日(土) 11時～12時 展覧会場内
講演会…7月4日(土) 14時30分～16時 美術館内講堂

大西克也先生(東京大学教授)

演題「楚簡・秦簡より見た戦国時代の漢字について」

祝賀会…7月4日(土) 18時30分開宴 如水会館

○第67回毎日書道展東京展

会場…国立新美術館
会期…平成27年7月8日(水)～8月2日(日)
会場…東京都美術館
会期…平成27年7月17日(金)～7月23日(木)

■ 洗碑会

日時…平成27年5月2日(土)
午後4時半～受付
午後5時～洗碑会
会場…文京区小石川・伝通院

■ 錬成会

日程…平成27年2月22日(日) 午前9時～午後5時
会場…鷺毛堂錬成会場・さいたま市南区文蔵4・27・3
内容…東方書展・毎日書道展・貞香書展に向けて
作品制作および合評会

■ 貞香会後援の展覧会

○中村大如書展

会期…平成27年5月8日(金)～12日(火)
会場…銀座・かねまつホール

○第37回東天会書展

会期…平成27年9月1日(火)～6日(日)
会場…千葉県匝瑳市八日市場公民館

○第46回墨光書展

会期…平成27年10月8日(木)～12日(月)
会場…春日部市民文化会館

○第29回西蓮会書展

会期…平成27年10月9日(金)～13日(火)
会場…銀座・かねまつホール

〈平成二十八年行事予定〉

主な展覧会

○'16 貞香会総合書展

会期：平成28年1月20日（水）～24日（日）
会場：上野・東京都美術館

○第59回東方書展

会期：平成28年4月1日（金）～6日（水）
会場：上野・東京都美術館

○第51回貞香書展

会期：平成28年6月22日（水）～7月4日（月）
会場：六本木・国立新美術館3A

ギャラリートーク
席上揮毫

講演会
懇親会

※後日お知らせします。

○第68回毎日書道展東京展

会場：国立新美術館
会期：平成28年7月6日（水）～7月31日（日）
会場：東京都美術館
会期：平成28年7月16日（土）～7月23日（土）

洗碑会

日時：平成28年5月2日（月）
午後4時～受付
午後4時半～洗碑会
会場：文京区小石川・伝通院

錬成会

日程：平成28年2月27日（土）午前9時～午後5時
会場：鷺毛堂錬成会場・さいたま市南区文蔵4・27・3
内容：東方書展・毎日書道展・貞香書展に向けて
作品制作および合評会

毎日書道展下見会

日程：平成28年4月11日（月）午後2時～午後5時
会場：文京区男女平等センター 研修室A
内容：当番番査員による作品下見

貞香会後援の展覧会

○素心会書展

会期：平成28年2月22日（月）～27日（土）
会場：文藝春秋画廊

○赤平泰処書展 ―書の美を求めて―

会期：平成28年9月27日（火）～10月2日（日）
会場：東京銀座画廊

○第47回墨光書展

会期：平成28年10月6日（木）～10日（月・祝）
会場：春日部市民文化会館

○第30回記念西蓮会書展

会期：平成28年10月14日（金）～18日（火）
会場：銀座・かねまつホール

※この他、貞香会会員が活躍する展覧会の情報は、
貞香会ホームページのインフォメーションにて掲載しています。
詳しくは、そちらをご覧ください。

〈事務局だより〉

◇年会費について

◎平成28年度の年会費は、5月31日(火)までにご納入をお願いします。

◎平成27年度以前の年会費が未納の方は、お早めにお振込みをお願いします。

◇第51回貞香書展の出品規定について

◎第1部、第2部とも複数部門に出品可能

第1部、第2部はそれぞれ、

①漢字多字数（21文字以上）部門

②漢字少字数小字数（1～20文字以下）部門

③仮名部門

④詩文書部門

の4部門に分かれます。

第1部、第2部の両方にまたがって出品することはできませんが、第1部、第2部の中で複数部門に出品することが可能です。

その場合、2作品目は出品料の割引制度が適用されます。

◎高校生出品募集

年齢満15歳（高校生）以上の方なら誰でも、第1部、第2部どちらかに出品することができます。出品料は、第1部は5千円、第2部は3千円です。（2点目より、出品料の減額制度有）奮ってご出品ください。

◎第2部、小作品の出品可能

第2部に出品にされる方、半切サイズ、3尺×3尺サイズの他、半切1/2、半切1/3サイズ、半紙サイズ等での出品も可能です。詳しくは、第51回貞香書展出品規定をご覧ください。なお、ご不明な点がありましたら、貞香会事務所までお尋ねください。

◎第51回貞香書展の作品締切について

平成28年度は、5月13日(金)までに各表具店に作品を搬入してください。締切厳守をお願いします。

◇住所変更について

住所・連絡先など変更がある方は、貞香会事務所までFAXまたはハガキなどの書面にてお知らせください。

◇会員の方の関係書道展について

会員の皆さんが活躍する書道展や催しものなどの情報を、貞香会事務所までお寄せください。展覧会の案内ハガキなど詳細をご郵送またはメールにて添付いただければ、貞香会ホームページのインフォメーションに掲載いたします。

◇ご意見・ご要望など

貞香会に関連する展覧会や行事などで、会員の皆さまよりご意見・ご要望などありましたら、貞香会事務所まで書面にてお寄せください。

❖表紙・中村素堂先生作品より

■名譽同人 林田翠龍先生が、平成27年6月26日に逝去されました。
御冥福をお祈り申し上げます。

【編集後記】

❖皆様の一丸により無事に第五十回記念貞香書展を開催することができたこと、安堵しております。(祝賀会係として)

また、今年の会報の担当に抜擢されましたが、不慣れで頭を抱えるばかりでした。(蓮徑)

❖平成二十七年開催の第五十回記念貞香書展では、中村素堂先生の書業を顕彰する遺作展、大きな反響を呼びました。この貞香書展五十回を記念して、会報を少しリニューアル。伝統と革新の貞香会、これからも続けていけるよう皆様とがんばります！
(彩心)

平成二十七年(二〇一五年)

会報 (第五号)

発行日 平成二十八年三月七日(月)

編集・発行 貞香会

東京都江東区新大橋一丁目四二二一
根本方

印刷・製本 富寿印刷

電話 〇三(六二八四)〇四六六
東京都文京区大塚三三六九
電話 〇三(三九四四)一一四一

